

第14回日高万葉の里コンサート高麗郡建郡1300年記念事業

「高麗の月」詩碑建立チャリティー 詩吟と琴と講談の集い

物見日和田の山脈は
もろこしびとも高麗人も
朝な夕なに拝みつつ
共に生きたる
山ぞかし

高麗の春風青艶の波
日和圍の山色嬌娥を悩ます
哀々何れの処か吟声こだます
弦月西傾して子夜の歌

米百俵

「山内一豊の妻」

講談師 一龍齋貞花

小泉純一郎首相の所信表明演説で有名になった、米百俵。講談の世界に新たな生命を吹き込む実力派講談師一龍齋貞花が語ります。

詩吟 勝部吼嶺 「高麗の月」

琴 合田真貴子 「さくら・他」

4月30日(土)
飯能市民会館大ホール
開場13:40 開演14:00
埼玉県飯能市飯能 226-2 TEL:042-972-3000

参加費 (全席自由) 大人 2,500円
学生・障がいのある方 1,000円

事業所、サークル、団体等で4枚以上お買取りいただければ協賛広告をプログラムに載せさせていただきます。

交通のご案内

車▶圏央道 狭山日高インターチェンジから約20分
バス▶飯能駅北口から約10分「天覧山下」下車
徒歩▶飯能駅北口から約20分

共催：日高万葉の里コンサート実行委員会 代表：金子健 tel.042-989-2676 fax.042-985-8945 携帯.090-9000-7094(金子バラ園) /いわいづら米作り研究会
後援：日高市教育委員会、飯能市教育委員会 協力：みのり会、NPO 法人文京教育トラスト / 一般社団法人：農業生産法人「日高さわやか村」設立準備委員会
新老人の会(会長 日野原重明) 飯能ランチ / 吼山入間：修武台・吟詠会
協賛広告：事業所、各種団体、サークル等で1口(チケット4枚10,000円)以上買取りいただいた場合にはプログラムに広告を掲載させていただきます。
チケット取扱所・各ポスター掲載所：日高市▶なかや商店(天神橋) 042-989-1583、高麗神社社務所 042-989-1403、日本料理アサヒ(高麗川駅前) 042-989-0103
株大丸(高萩駅前) 042-989-3566、関閘口商店 042-989-1846、金子バラ園 042-989-2676 / 飯能市▶五十嵐酒造川寺 042-973-7703、さわや(飯能銀座) 080-1265-7676

第14回「日高万葉の里コンサート」高麗建郡1300年記念 「高麗の月」詩碑建立チャリティー「詩吟と琴、講談の集い」へのご協力をお願い

早春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

お陰様で「日高万葉の里コンサート」も14回目となりました。ありがとうございます。

「米百俵」は私自身、日高市の生涯学習センターが平成3年頃に出来てまもなく農業改良普及所の主催で聞いた時に大変感銘を受け、ぜひもう一度と今回初めて主催させて頂くことになりました。ご存じの通り「米百俵」は山本有三の戯曲をもとに作られた話で、人材育成の重要性を説いたものであります。「幕末の三虎」と云われた鞍馬天狗のモデル吉村寅太郎、吉田寅次郎(松陰)、「米百俵」の小林虎三郎等々の優秀な人材が幸いにして多くいたため、列強の植民地化を防げたのであります。平成維新といわれる今、日本人の主食である米は水の豊富な日本の風土に最適の作物ですがTPPやFTAなどで死活問題となっております。本来のテーマとは違いますが、米の重要性を改めてお考えいただくのもあながち的外れではないと考え師匠にお願いしたところ快諾していただきました。また、「山内一豊の妻」も良妻賢母の鏡といわれている千代の話ですが、日本の重要課題のひとつとされている少子化に、もっと女性力が活かされて欲しいという思いで演目に加えさせていただきました。

貞花師匠は講談会の重鎮であられ保護司など多くの公職もされており2、3時間でも厭きさせないと自信を持っておられます。日本人の古き良き義理人情の講談が改めて見直され、皆様に好きになっていただければ幸いです。また、詩吟は明治維新以後、国を愛するが故に憂い家族を犠牲にして散っていった志士たちの血を吐くような漢詩を吟じることが多いためか重くて暗いと思われがちです。しかしながら今の日本人が失っているもの、日本人の琴線に触れるものを持っていると思います。

ご存じの通り当地は716年に高句麗を中心とした渡来人である高麗王若光のもとに開拓が進められ2016年に建郡1300年を迎えます。文化新聞に掲載された「高麗王物語」によりますと渡来人たちは先住民よりはるかに高度な文明を持っていましたが融和をモットーにこの地を治め、私の墓は目立たなく小さく作りなさいとも言われたそうです。若光を祀った高麗神社は旧高麗郡内に26の末社を有し白髭様として崇められております。

また、入間第二用水は昭和7年に着工し、同17年に完工しています。飯能市小瀬戸で名栗川より分水し、武蔵台の下を潜り、台の不動様でちょっと顔を出し宮沢湖に流入しています。ほぼ、旧高麗郡内を潤しています。

また、日高の風光を愛し移住してきた1人に井樽要賛がいます。八王子実践高校の体育教師で行く先々でバレーボール部を全国優勝させていたそうです。最後が奈良県の飛鳥でしたが飛鳥の風景を好み、よく似ている日高市高麗の新井橋のもとに移り住み、昭和57年に亡くなられ聖天院にお墓があります。身内の方が昭和天皇の侍従をされていたことから、皇族旧華族の会員制の霞会で詩吟をご進講されておりました。要賛は新井橋の上でよく詩吟を大きな声でされていて対岸に住んでいて親しくなった加藤さんに頼まれて漢詩「高麗の月」を作詞していただきました。

高麗の春風青艶の波、日和田の山色嫦娥を悩ます。

哀々何れの処か吟声こだます弦月西傾して子夜の歌

私も詩吟を少々嗜んでおりましたので十数年来この詩碑を建てたいと思っておりました。

この度、高麗郡建郡1300年を記念して要賛の緑地に詩碑を建立し日高の良さを後世に語り継ぎたいと思います。「米百俵」の独占上演権を有する一龍斎貞花師匠をはじめ勝部吼嶺先生、合田真貴子さんの協力をいただき、この企画となりました。何卒ご高配の上、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

我胸の燃ゆる思いにくらぶれば煙は薄し桜島山(平野国臣)

身はたとへ武蔵の野辺に朽ちぬとも とどめおかまし百姓魂

TPP・FTAもやむなきか農の務めと冬耕に出づ

日本の頭にのる冬の空気かな

稜線の青くきわだつこの街の低き山なみ 我に親しも(池田洋子)